「戦争はしない」と誓った憲法九条は

日本の宝、世界の宝、いのちの宝

憲法九条を守ろう!!

（記載は五十音順です）

憲法九条を守る西山の会

いかなる理由をつけようと
国家の名において
人が人を殺すことを
戦争という

国際社会で日本が果たすべき役割

西山町別山　荒城　健

今年は、日本国憲法公布六十二周年。この現憲法は、第九条で戦争の放棄を掲げた、世界に類例のない平和憲法です。近年、現憲法第九条の内容を安全保障に書き換え、自衛隊を自衛軍に変更しようとする動きが激しくなってきています。二年前の一月、防衛庁が防衛省に昇格し、同時に自衛隊は、本来任務に海外派遣が追加され、着々と自衛軍化しつつあります。これは、交戦権の行使や徴兵制につながるもので、戦後日本が築き上げてきた平和主義や民主主義を根底から覆すことになります。国際社会で日本が果たすべき役割は、現憲法第九条の下で、自衛隊の任務を、祖国防衛中心の非軍事的な活動に限ることです。

私の考え

西山町藤掛　池田　健児

戦後六十年余りも日本の国が平和であったのは、まさに世界に冠たる日本国憲法第九条のお陰であることはいうまでもない。しかし、近年この平和憲法の改正論議が高まり、来年五月には国民投票法が施行されることになっている。これで、憲法改正の法的手続きが一応整ったことになるが、私たちはこの平和な日本を、再び戦争のできる国にしないため、可能な限りの行動をおこすことが大切である。太平洋戦争において約三百万人の軍人と、民間人が犠牲になったことを、私たちは決して忘れてはならない。戦争ほど愚かで残酷で、不幸なことはないのである。

憲法九条改憲問題に思う

西山町池浦　巨谷　学

「戦争は二度と起こしてはならない。」

憲法（九条）改定を主張する人も、憲法（九条）を守ろうとする人もこの事に異論を称える人はいないだろう。

では、何故、改憲と改憲反対とに意見が分かれるのだろう？

様々な要素があると思うが、その中の大きな要素が「自衛隊」の問題とその海外派遣の問題（世界貢献の名のもとに）であろう。

極端かも知れないが、改憲派の人は自衛隊員が人に向けて銃弾を撃つ事を（たとえ正当防衛だとしても）認めさせようとしているのだろうし、

反改憲の人は「いかなる理由があっても人が人に銃を向けてはならない。」

と考えているからだと思う。

そして私も後者の一人であり続けたい。

戦中に学んで

西山町上山田　尾崎　忠良

太平洋戦争末期小学生だった自分達は八月十五日を境にしてその前後で大きく学校生活が変わりました。晴天ではグランドで、雨天では校内の廊下でやらせられたラッパに合わせての行進は無くなり、教科書も新品が間に合わなかったので、使用中の教科書の軍国調部分を墨で塗り潰して使いました。変動激しく混沌とした世情の中で、大切な勉学の最適期を失ったことを今でも残念に思っています。

その後憲法の集中講義で新憲法の作成に関わった鈴木光録教授の授業で、憲法九条について、熱のこもった説明と教授の力説が表情と共に甦り、今となっては懐かしい思い出の一つであります。また、柏崎出身でフランス文学者の杉捷夫先生も「心との対話」の中で、人間と平和の大切さを力説されています。私達もこの戦争の無い平和な世の中に生きる事への感謝の気持ちを失わない事こそが平和へ繋がる道と信じています。

私の感じ

西山町礼拝　神子　一

昨年頂いた九条の会のチラシの蓮池さん作

二つめ……、武器を持っていなければ調子にのって戦争をおっぱじめることができないからね。のくだりにはアンダーラインを引き自身の教訓にもしました。

戦争が残すものは悲しみと人の心を傷つけ弱らせ痛ませるものです。人にとって地球にとって良い事プラス面はありますか？ヘミングウエイの武器よさらば、ならぬ武器を捨てよではないが無用の武器の製造所有を防ぐという観点からも憲法九条の精神は守らねば広めねばと思う。

亡父も大戦に工兵とし従軍し、その為に身体を疲弊したようだと聞かされた。

「聞けわだつみの声」という戦没者学生の手記手紙の新書本も少し読んでいます。

戦争のつけは次代に必ず残ります。歴史に学べばわかると思います。

映画「靖国」上映会

日時、六月六日（土）
午後二時三十分より（二時間三分）
場所、西山ふるさと館

私に、あなたにできる事は何？